

# Q & A

問題解決!



南部営農センター  
園芸課  
検校 哲也

**Q1** 種をまいても、うまく生える時と生えない時がありますが、何が原因？

**A1** 芽が出ない、という失敗は時たまあることですが、まいた種が全部芽を出すわけではないかもしれません。花などは半分くらいしか出ない時もあります。

絵袋の裏を見てください。有効期限と発芽率が書いてあります。一般的な野菜で65〜80%、ニンジンみたいに55%というものもあり、十分な発芽条件でもこの程度です。

温度、水分、酸素、この3つが発芽に必要な条件です。ニンジン、ゴボウ、レタス、パセリなどは光も必要とします(好光性種子)。

絵袋には発芽適温が書いてあります。親切なことに、地域ごとの播種期や収穫の時期が日本地図と年間カレンダー

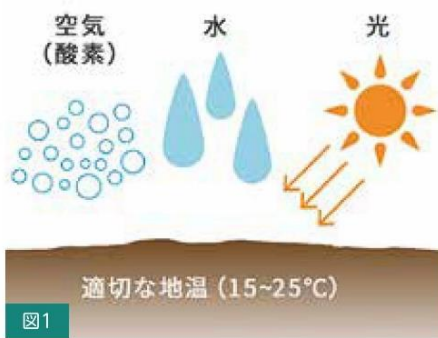


図1

に示してあります。絵袋は栽培テキストですね。

●発芽適温

トマト、ナス、ピーマンは20〜30℃が適温で、トウモロコシ、スイカ、キュウリなどの夏野菜は25〜30℃です。

つまり、まだ寒い時にまいても芽を出さないといいことです。低温期には、前もってビニールでマルチして畝を温めたり(写真1)、トンネル栽培にします(写真2)。

ちなみに発芽適温は、気温

●水切れ注意

種は、水を吸収すると発芽に向けて動き始めます。動き



写真3

でなく地温、まき床の土の温度です。まき床にさす地温計があると便利です(写真3)。



写真2



写真1

始めたなら水切れは禁物です。種の中の栄養を使って根や芽を伸ばします。その時、水を必要とします。

●呼吸する根

とは言え、水浸しになると呼吸できなくなります。排水の良い土が、まき床には向いています。

根は、昼間に光合成に必要な水を吸収し、夜は土の中の酸素を取り入れています。通気性が悪いと、呼吸できなくて根腐れします。

●温度と作物栽培

主な作物が順調に育つ適温は15〜30℃です。15℃を越えると発芽しだします。今年は大寒波が来るなど春が待ち遠しい冬らしい冬でした。

愛西アメダスの平年値を見ると、最高気温が15℃を越えるのは、3月24日です。春分の日を過ぎると、色んな草花が芽を出し始めるわけです。

ところで、今年の旧暦は3月22日が閏2月1日となり、2月が2回あります。

旧暦では、月の満ち欠けを基準に、新月となる日を1日(ついたち)にして、満月は15日(十五夜)となり、次の新月ま

で1カ月としています。

1カ月は約29日と半日で、1年は354日か355日となり、西暦より11日短くなります。太陽の周りをまわる1年に近づけるため、昔の人は閏月を入れる方法を取り入れたわけです。

なお、平均気温が15℃になるのは4月22日、5月23日になると最低気温も15℃を越えます。このころになると、夏の野菜を含め、ほとんどの作物が芽を出し、苗もずんずん育ちます。

野菜や花の苗が売り出されるのもこのころです。4月下旬には愛菜耕房・菜々耕房で売り出しが始まります。ご来店お待ちしております。

オンライン  
農業塾は  
こちら

動画はコチラ



管内の  
病害虫  
情報は  
こちら



家庭菜園  
情報は  
こちら

